（書式２）

＜事務局使用欄＞**受付番号：**　　－

「国立台湾大学派遣参加報告書」

京都大学工学部３年　宮田彩名

①学習成果（今回の派遣に参加する前とした後とで、留学、大学での学習、国際理解への意欲に関して、自分にどのような変化が起きたか、今回の派遣に参加して、次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったかなど）

今回のプログラムに参加する前は、英語圏への関心は高かったものの、それ以外の国々の文化に関しては、とりわけ高い興味を抱いてはいなかった。しかし、このプログラムの中で、台湾の歴史、文化などに触れ、想像をはるかに超える学びや楽しみを得ることが出来た。それは、語学力が向上することに対してだけでなく、実際に異文化に飛び込み、互いに理解しあえた時のものでもあり、この上ない喜びであった。

今回のスプリングプログラムを完走し終えて、自分の中で起きた最も大きな変化としては、ある特定の文化圏だけでなく、自国を含めた幅広い文化圏に対しても、興味を持つようになったということである。中国語初学者として、三週間のプログラムを乗り越えられるかどうか不安に感じたこともあったが、むしろこのプログラムを自分なりに最大限楽しむことができたのだという自信が、私の異文化への興味をさらに加速させたと感じている。

私は理系学部に所属しており、大学院も含めて考えると、学生として過ごす時間は比較的長い。今後は研究生活が主になるが、その中で一度は自国を離れ、そこで研究活動をすることで、新たなアイデアや価値観を取り入れ、それを活かしてより良い結果を出す。そんな研究者になりたいと感じた。

何事も「コロナウイルスのパンデミックのせいで」と片づけられてしまうご時世ではあるが、オンラインのプログラムならではの良さも沢山あった。実際、理系学部の三回生として研究室配属を間近に控えたこの時期に参加することができたのは、紛れもなくオンラインプラグラムであったからである。何はともあれ、このプラグラムに携わり、沢山の学び、気づきを与えてくださった全ての方に感謝を申し上げたい。

②プログラム内容

今回のプラグラムは大きく分けて中国語を学習する一般のクラスと、台湾の文化や歴史を学ぶ文化交流のクラスがあった。

通常の授業については、中国語初学者ということもあり、初めは難しく感じられた。しかし、使うことのできる文法が増え、会話やリスニングができるようになるということは、想像以上に楽しいものであった。加えて、講義内では、先生がアクティビティなど楽しめる要素をふんだんに取り入れて下さり、三週間という短期間の間に、集中的に中国語を学習することができたと感じている。

文化交流のクラスとしては、オンラインで台湾の名所をめぐるバーチャルツアー、台湾の社会、文化的側面に関する研究をもとにした講義、並びに、学生同士の意見交流会などがあった。

講義内では、台湾の社会、文化的側面について学んだ。歴史の流れが細かく、論理的に説明されていたのが非常に面白かったが、何よりも興味深く感じたのは、日本で受ける歴史の講義のように、単なる事実の羅列として学習するのとは違い、過去から現在までの人の営みという目線で、歴史や文化が説明されていた点が非常に面白かった。

学生同士の意見交流会では、バックグラウンドの数だけ、物事を見る視点が異なり、多様な考え方がある中での議論は非常に楽しいものであった。また、同世代ならではの共通点なども共有することができ、有意義な時間であった。

これほどまでに異文化、および他言語を学ぶことが楽しいとは思ってもいなかった。語学だけでなく、たくさんの「気づき」に出会えた、非常に充実した内容であった。

③進路への影響について

私はこの春から研究室に配属され、本格的に研究者としてのスタートを切ることになる。一化学者として、英語圏だけでなく、様々なバックグラウンドを持つ人々と協力して、研究を進めていくことが必要となる。春から所属する予定の研究室は、外国から日本に来て研究をされている方々が半数を超えるという環境である。そこで、このプラグラムで得た経験を活かし、文化の違いを、今までよりももっと楽しむことができるようになると考えている。